

これまでの議論

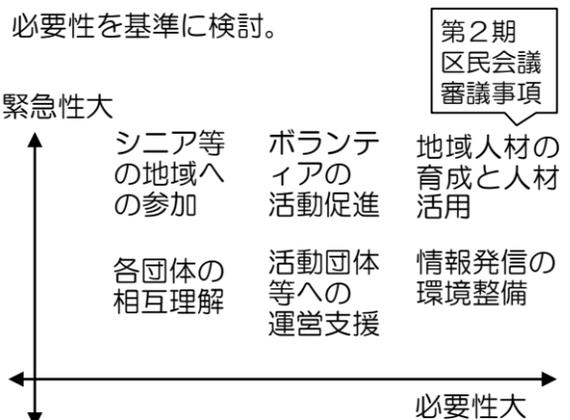
今後の検討事項

1. 背景

- 市民活動・地域活動を活性化するためには、活性化支援と合せて、実際に活動する担い手づくりが必要である。
- 地域におけるコミュニティづくりと合せて障害者や高齢者等が住みやすいまちづくりが必要である。

2. 方向性・課題の抽出

- 方向性
- 市民活動の担い手づくり・活性化
 - 地域活動の活性化
 - 高齢者・障がい者が外へでる機会
- 課題の抽出
- 各意見を6つの項目・課題に分け、緊急性と必要性を基準に検討。



3. 審議テーマの決定

- 優先テーマ
- ボランティアの活動促進**
- 優先テーマ
- 情報発信の環境整備
 - シニア等の地域への参加
- 全体へ係る課題
- 市民活動等への運営支援

各テーマは相互に関連

4. 審議対象の検討

(ボランティアの意識変化から)

STEP 1



- ・何らかの活動をしたいと思っている。

STEP 2



- ・何らかのきっかけで一步を踏み出してみる。

STEP 3



- ・活動のプレイヤーとなる。
- ・活動を通じて、仲間や居場所ができる。

STEP 4



- ・リーダーの影響を受けてプレイヤーも成長する。
- ・自発的な心が芽生える。

STEP 5



- ・マネージメントやリーダーになり、同じ意識を持った仲間を集める。

5. 具体的な審議内容の設定

ボランティアをしたい人や関心のある人がボランティア活動への一步を踏み出せるように、受け取りやすい情報発信の仕方やルートなど、気軽に参加できる仕組みを検討する。※ボランティアに関する既存の意識調査報告書を参考に検討。

- (参考)
- 平成25年度市民自治の実態等に関する調査（川崎市）
 - 平成25年度川崎市高齢者実態調査（川崎市）
 - 平成26年度市民の社会貢献に関する実態調査（内閣府）
 - 新たな総合計画に関する市民意識調査（平成27年2月実施）（川崎市）

6. ターゲットの設定 ⇒ **シニア世代** をメインに

- ・趣味に没頭している60代~70代の人達にボランティアをしたいという気持ちを持ってもらう。
- ・何をやりたいのかわからない「もやもや」している人に向けて、参加のきっかけを作る。

7. 仕組み・仕掛けのイメージの検討

STEP 2の過程を「知ってから行動するまで」の5段階に分け、STEP 3につなげる仕組み、仕掛けのイメージを検討。



「知る」について

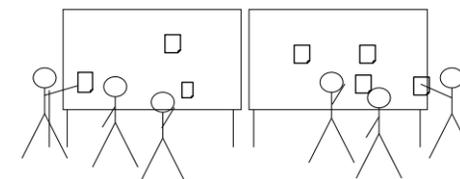
- ・ボランティア活動を知ってもらうためには、様々な媒体（雑誌、HP、地域情報紙、掲示板など）の活用が必要。
- ・ボランティアのPRのために、区を挙げたキャッチフレーズも有効。
⇒「ボランティアは健康寿命を延ばす」という話もある。昨今は社会参加、生きがいや仲間作りも大事な要素になっているようだ。
- ・妻に向けたPR。男性を参加に結びつけるには「妻に勧められて」などの理由が必要となる。
- ・目につく方法や場所を考える必要がある。

「関心を持つ」について

- ・個人の価値観に左右されるのではないか。
- ・自分のため、社会のため、余暇のため、健康のため、特技を披露するため、時間があるため。様々な動機が挙げられる。それぞれにアプローチが必要である。

○ブース開設による区民との意見交換

- 健康に関するイベント「麻生区健康づくりのつどい（10月31日）」の場で、部会としてブースを設置する。
- ・ボランティア活動が、健康寿命を延ばすことに繋がる旨をPRする。
※健康維持のためには体の健康面だけではなく「心」の面も重要であることを来場者に伝える。
 - ・ボランティア活動等に関することについて、意見交換用のボードを設置し、来場者の声を集める。



○現地調査の実施

- ・シニア世代が集まる施設利用者がボランティア情報を入手しやすい環境にあるかどうか等を調査する。

○フォーラムの開催

- ・部会の審議テーマに沿った目的や内容を検討する。

ボランティアの活動促進のための具体的な検討

提言取りまとめ

提言（報告書作成）